





久留米

KURUME MACHI TABI GUIDE BOOK
公式ガイドブック

まち旅

博覧会

どうぞ秋色の久留米へ。
「まち旅」でございましたよ。



2010.10.3-12.12

<http://www.kurume-machitabi.com/>



集まり、考え
披露しては、また考え
てきました。



楽しみ、笑いあい
手づくりする旅。
そんな、まち旅です。

これまでに6,368人の方にご参加いただいた
久留米まち旅博覧会。
左のページの写真は、その予約開始前のキックオフの風景です。
みな参加することはかなわないながら、
ひとりひとりにマイクがまわり、
まち旅への思いが語られました。
6,368人との出会いは、その思いのかたち。
この秋も、さっとまた。

どうぞガイドブックを聞いて
お気に入りのまち旅を探してみてください。
紅に黄色に染まりゆく、芸術と実りの秋。
さあ、まち旅へと出かけませんか！





伝統と手仕事の
まち旅

久留米絣や藍胎漆器といった伝統工芸の、できあがるまでの、気の遠くなるような工程と時間。暮らしの中で長く使うために丈夫で、心地よく、そして美しくというつくり手の幾多の思いに触れながら、工房をのぞいたり、普段はできない体験を試したり。久留米の伝統と手仕事に触れるまち旅です。



竹細工に漆を覆いにも重ねた「藍胎漆器」は、棘と結び久留米が誇る竹と漆の芸術品。竹ひごをひいて、糊代糊みに挑戦、自分で板をカットしてつくる世界にひとつのブローチ作り、又はタイピンづくりのどちらかが選べます。自由に板色の組み合わせで特別色。最後は工房職人の手で仕上げます。工房の針先でお話を聞きながら藍胎漆器体験をしてみませんか。

3/18 (木)・20 (土)
22 (月・昼休) 10:00~12:00

集合場所・会場/本郷動物園裏の森 (原宿駅約20分) Map p27-d-4
料金/2,000円 (送料込み) 定員/各4名 所要時間/約2時間
※お預りも良い体験ですのでお話をお願いします。
スケジュール (予定) / 10:00 集合→好きなデザインに板をカット→竹ひごを糊代糊みに色を馴染ませる→色を固定し仕上げ職人による→12:00 解散
●予約先 本郷動物園製作所 ☎0342-32-2669
※最終日の3日前までに要予約

藍胎漆器工房で職人の手仕事体験
世界にひとつ藍胎漆器の
ブローチ・タイピンづくり

17

三基で藍色に思いを込め
「みづま刺子」でつくる
藍のエコバッグ

18



三基の田中絹正商店。こちらの藍染工房で染染された布に、「刺子(さしこ)」を施す「みづま刺子」でエコバッグを作ります。刺子は、布の撚強のため布を合わせて縫うと縫ったことが跡となりとされ、様々な模様が見られるようになりました。みづま刺子の名は三基を広く知ってもらいたいという思いから付けられたものです。デザインや色を選んではオリジナルのエコバッグづくりをしてみませんか。

4/10 (土) 13:00~16:00

集合場所・会場/田中絹正商店の工房 (三基町第三館224)
Map p27-e-5
料金/2,000円 (お菓子付) 定員/5名 所要時間/約3時間
スケジュール (予定) / みづま刺子のエコバッグづくりとティータイム
●予約先 田中絹正商店 ☎0342-64-2903
※最終日の3日前までに要予約
●西武入替券でも可 (1期にお申込ください)

楽しく久留米体験
19 絣の小径散策(寺町)と絣の小物づくり

寺町にある民王寺で、絣デザイナーの市瀬先生を囲み、絣のペットボトル入れを作ります。体験の後は久留米絣の里である井上区や、久留米ゆかりの多くの偉人達が眠る寺町を散策します。久留米絣の寂しい道産である田圃式倉庫の見学や、情緒溢れる寺町散策を堪能しながら、久留米の伝統工芸を気軽に体験してみませんか。

4/24 (土) 13:00~16:00

集合場所・会場/民王寺 (寺町35) Map p27-d-4
料金/1,200円 定員/15名 所要時間/約3時間
スケジュール (予定) / 13:00 集合→絣ペットボトル入れ作り体験
→ガイド付散策 (約1km) →16:00 解散
●予約先 地産直ぐらふ ☎0342-44-3700 ※最終日の3日前までに要予約

軽く丈夫な
道具としての美
藍胎漆器



藍胎(らんたい)漆器は、竹を編んでつくったかごなどに、その上から漆を塗り、さらに銅箔などの装飾をほどこした漆器です。藍胎は、「藍」が竹かご、「胎」が竹を意味し、漆の中に竹を包んだ漆器という意味があります。昭和2年(1927)頃、京都の名高い美術師、柳井半兵衛が久留米郡に引き、久留米産漆器が富貴たのがきっかけとなり、明治20年(1887)頃、山本村(現在の山本町)に住む市人の豊原清次、同じく竹細工師、近藤幸七、近藤幸七、近藤幸七の3人が力を合わせてつくったとされています。20以上の工程によってつくられる藍胎漆器は、軽くて丈夫で、そして美しい道具として暮らしの中に使われています。 (出典:久留米市)





寺社のまち旅

耳納連山西方には高良大社、山麓には草野氏の築精盛衰を伝える寺社の数々、筑後川河畔には、久留米藩時代の菩提寺である梅林寺や全国の総本宮である本天宮。いずれも、江戸時代からの精木の産地ならではの、由緒ある花の名所でもあります。久留米の歴史を見つめてきた古木の花もひときわ美しい、春の寺社のまち旅です。

20 名物の雰囲気味わいながらの 梅林寺で本格座禅体験

梅林寺は九州唯一の拝の狭き道。一歩足を踏み入れると永年の歴史の重みを感じる景をなす境内。普段は足を踏み入れることができない梅林寺での春の座禅体験や、お昼は雲水さんたち（修行僧）の宮内のお食事をお楽しみいただけます。日常では味わえない禅寺での心静かな修行体験。



4/22 (木)・23 (金) 10:00～16:00

※23日は特別プログラムとなり、昼食後、13:00～15:00まで般若講（経読・読法・経講）、その後座禅体験となり、終了時間が16:00頃となります。

集合場所：会場／梅林寺（京町209）Map p27-d-4

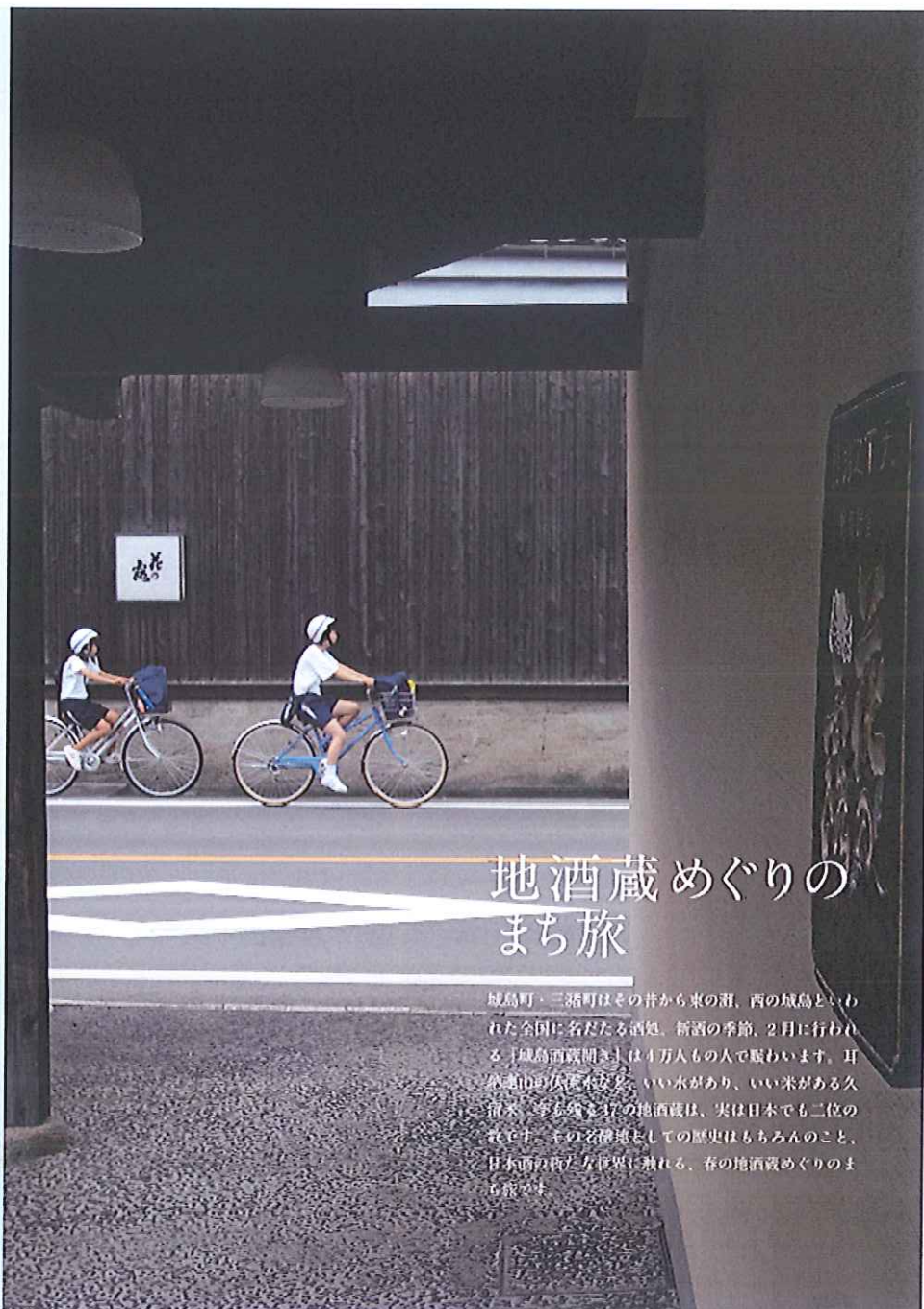
料金は3,200円（昼食付）

定員／各30名 所要時間／約6時間

※華美な服装でのご参加はお控えください。また座禅体験は満足での体験となり、体験時にはお持ち帰り品は外していただきます。

スケジュール（予定）／10:00 梅林寺集合・座禅・読経・般若・読法・経講・お粥の法話・座禅・お内・境内拝観・16:00 解散

●予約先 久留米まち旅情報センター ☎0942-31-1730
実施日の3日前までに要予約



地酒蔵めぐりの まち旅

城島町・三瀬町はその昔から東の瀬、西の城島といわれた全国に名だたる酒地。新酒の季節、2月に行われる「城島酒蔵開き」は4万人もの人で賑わいます。耳納連山の伏流水など、いい水があり、いい米がある久留米。その名産品としての歴史はもろみんのこと。日本酒の文化が世界に広がる、春の地酒蔵めぐりのまち旅です。

4 窯陶房「現の証拠」で 選んでつくる お茶碗・ミニ盆栽鉢



河東郡さんの陶房「現の証拠」で「焼きもの好き」の日本人の「心」を具現化します。お茶碗又はミニ盆栽鉢の選べます。制作後は、春の草野路を散策するもよし、作陶体験と自然をお楽しみください。

4/11 (日)

① 10:00~11:30 ② 14:00~15:30

集合場所・会場/草野路「現の証拠」(草野町草野 B21-2) Map p28-g-4
料金/2,500円 ※炭素材料費(九州域内500円)
定員/各10名 所要時間/約1時間半
※おとも持参、作業しやすい服装でお越しください。

●予約先 久留米まちづくり委員会事務局 ☎0942-31-1730
実施日の3日前までに要予約



北野天満宮の参道沿いにある結納茶専門店「さいわいや茶屋」で、1000年前から受け継がれてきた伝統工芸「水引」に挑戦しましょう。「水引」は「結玉」という意味を持ち、人と人、心と心をつなぐものとして、祝儀袋など、昔から生活の中で多岐に利用されてきました。レクチャーを受けながら結びを体験します。ブローチや髪飾り、そしてラッピングにも結びを覚えるといろいろなものに活用できます。

4/14 (水)・15 (木) 13:30~16:00

集合場所・会場/さいわいや茶屋(北野町今山384-1) Map p28-f-3
料金/2,300円(お菓子付) 定員/各10名 所要時間/約2時間半

●予約先 久留米まちづくり委員会事務局 ☎0942-31-1730
実施日の3日前までに要予約

5 北野で感じる日本の文化 水引を結んでつくる 梅の髪飾りとブローチ

6 田舎で癒しのひととき クラシックギターコンサート & ランチ

耳納連山の美しい自然を感じながら「石見亭」でのクラシックギターコンサート。樹齢300年の抹茶シママツジを見て、春を感じながら、松下隆二氏のクラシックギターの美しい音色と季節のお料理を堪能しましょう。

演奏 松下隆二

1971年福岡生まれ。アオヤマクラシックギターを坂本一比古氏に師事。1993年 第39回九州ギターコンクール優勝。これを機会に渡仏し、パリ・エコール・ノルマル音楽院に入学。アルベルト・ボンゼ、バブロ・マルクス両氏に師事。帰国後はソロ・リサイタルや室内楽を盛んに行う。これまでに、レオ・プロウマン、ペペ・ロメロ、藤田進一、デイビッド・ラッセル各氏のレッスンを受講。フォレストミュージックアカデミーギター科講師。

4/18 (日) 12:00~14:30

集合場所・会場/石見亭(田主丸町石見 1365-6) Map p20-f-4
料金/3,150円(食事付) 定員 20名 所要時間/約2時間半

●予約先 石見亭 ☎0343-72-3479 実施日の3日前までに要予約



山辺の ギャラリー



芸術のまち久留米には、さまざまなギャラリーがあり、中でも耳納連山の山辺を通る「山辺(やまべと)の道」や、豊後街道の南側に草野町、山本町界隈には、多くの芸術家や工芸家が暮らしています。移り住む人も多く、陶芸、木工、絵画、デザインなど、その表現もさまざま。道に咲く春の花を愛しみながらギャラリーをめぐる、カフェやレストランでゆっくりと、山辺から見渡す豊後平野の風景もまた、格別です。



ものづくりの
心を知るまち旅

7 ゴムのまちの底力を知るツアーづくり ムーンスター Design Tour



創業6年創業の株式会社ムーンスター。福岡県糸島市にある、ローリーで主役のデザイン・エンジニアリングを担っていたエンジニアリング・デザイン・センター(旧)のメンバーが、福岡県糸島市に「つぎはし創発センター」を開設。日本初のデザイン・ブティックなど必見のスポット。デザイナーズ・イン・イノベーション(ロクマ)や、林づくりの技法に耳を傾ける「月星大学院」など、地元企業の歴史と底力を知れる一日です。さらに足型靴などで自分の足の正確なサイズを知る「足型測定」もあります。

ゴムのまちとして発展してきた久留米。足袋にゴム底を貼付けた地下足袋の革新的技術、そしてできたゴム底の靴は、国内だけでなく、世界のあちこちの足もとを安全に守りました。地元企業に根々と息づく技術とフロンティア精神。久留米のものづくりの心を知るまち旅です。

4/24 (土) 10:00~15:00(集合9:50)

集合場所・会場/株式会社ムーンスター本社(山崎町10番地) Map p27-d-4
料金/大人3,000円 子ども2,000円 定員/20名 所要時間/約6時間
スケジュール(予定)/9:50集合→マイカーで3つくり→12:00社員食堂で昼食(飲み)と休憩(お昼→月星大学院(デザインとつくり見学)→「つぎはし創発センター」見学→15:00解散→解散

※参加者の条件/高校生以上
※エプロン持参、又は汚しやすい服装でお越しください

●予約先 久留米まちづくり委員会事務局 ☎0942-31-1730
(土曜日のため、4/6まで要予約)

ものづくりの 心を知るまち旅

ゴムのまち久留米、足袋にゴム底を貼付けた地下足袋の革新的技術から生まれたキャンパスシューズは世界の人びとの足を守りました。地元企業のかけがえない歴史と心を知る、まち旅です。

12 ゴムのまちの底力を知るマイシューズづくり ムーンスター Design Tour

明治6年創業の株式会社ムーンスター。映画ウエストサイドストーリーで主役のジョージ・ジャクソンが履いていたオリジナルデザイン「ベンチャー08」のマイシューズをつくりま
す。「つきほし歴史館」では、本田宗一郎氏発案の日本初のライダーブーツなど必見。デザイナー、ナガオカケンセイ氏との「ムーンスター00（ロクマル）」や、脱づくりの秘話に耳を傾ける「月星大学院」など、地元企業の歴史と底力を知る一日です。
さらに足型測定器「フットラン」で自分の足の正確なサイズを知る「足型測定」もあります。

10/16 (土) 10:00~15:00 (受付9:50)

集合場所：会場は、西ムーンスター本社
アクセス/久留米市白田町60番地 MAP p39-d4

料金/大人5,000円、子ども3,000円（お申し込み時に、事前申込のご案内を致します。事前申込のパーツを生産するため、10日以前にキャンセルの場合は、30%のキャンセル料が発生致しますので、ご注意ください。定員/20名、所要時間/約5時間
スケジュール（予定）/9:50集合→マイシューズづくり→12:00社員食堂で昼食（実費）とお買い物→月星大学院（デザインと脱づくり秘話）→「つきほし歴史館」→「フットラン」による足型計測会→15:00帰還車→解散
※同業者の方はご遠慮ください。
※エプロン持参、又は作業しやすい服装でお越しください。

●予約先 久留米まち連携委員会事務局 ☎0942-31-1730
※セミナーのため、9:30までに異予約

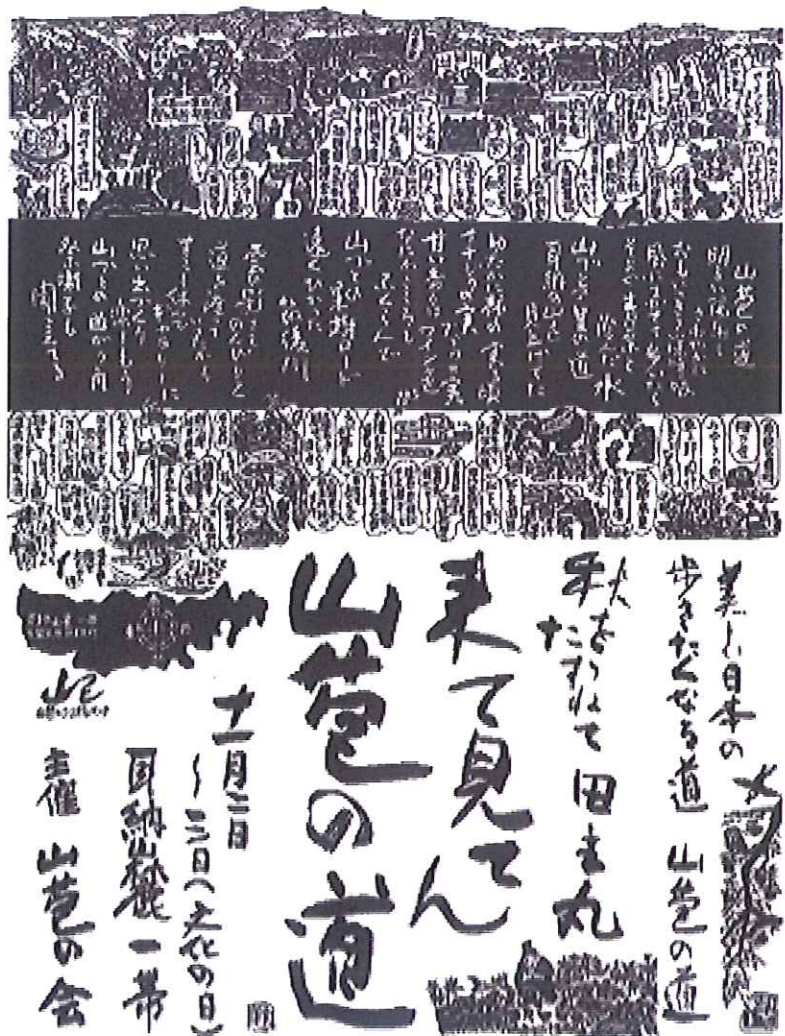


美術館を建てるよりも

久留米市、田主丸町の山辺県道より一本南側にある農免道路。美しい耳納連山を背景に東西に走るこの道を、人々は「山苞の道」と呼びます。

故郷の田主丸に再び居を構えた画家西田豊さんが、耳納の里に美術館をと呼びかけ、平成6年にできた会がことの発端でした。会合を重ねるうち「いきなり建物を建てるよりも、文化的な意識を高めるために、美術館にふさわしい愛称を農免道路につけよう」ということになりました。

平成7年、333通の応募の中から選ばれたのが、竹野に住む渡辺靖子さんの「山苞の道」です。



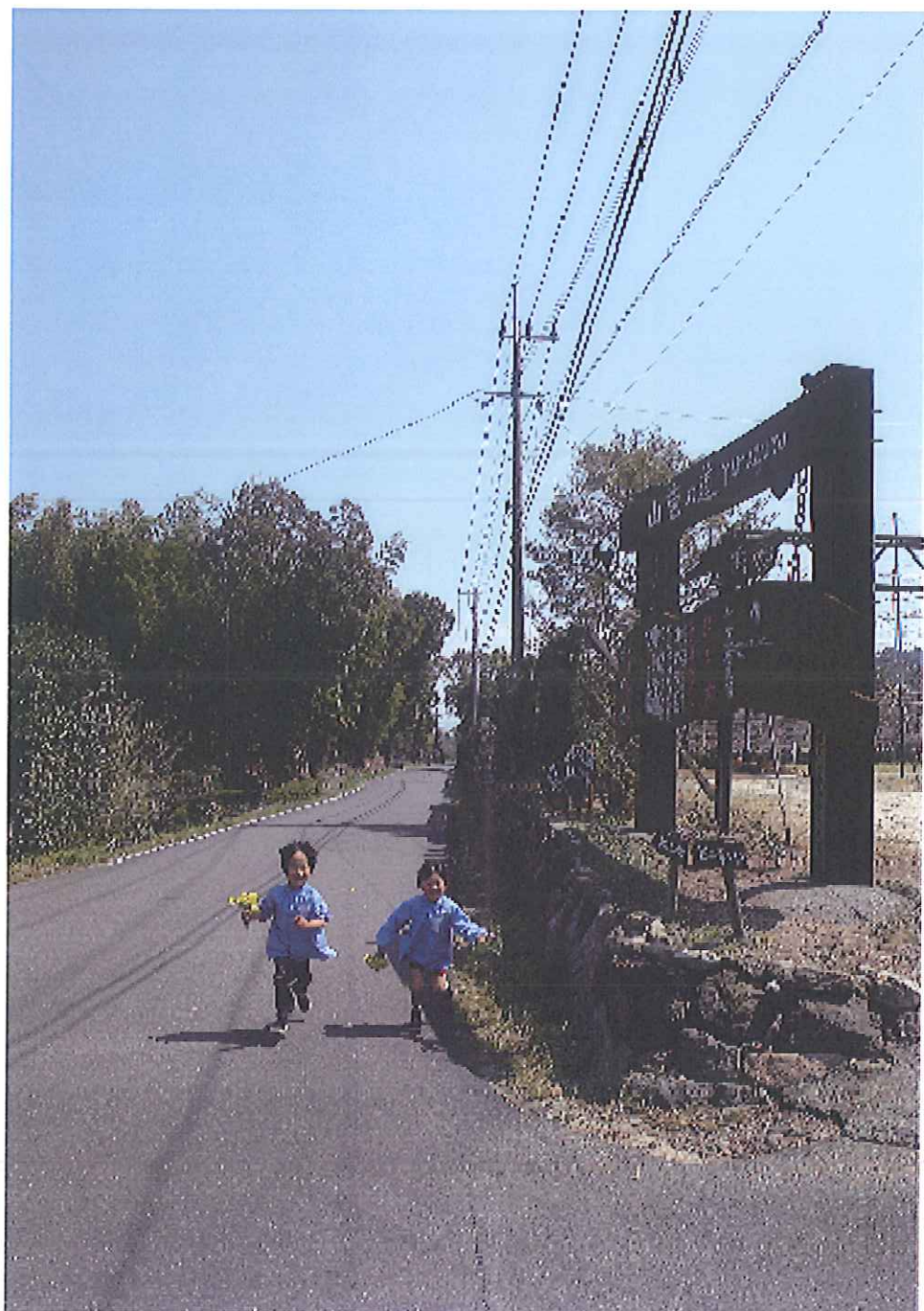
あるもの、すべてが名所

そんな山道の道の見所を案内する看板は手づくりで、緑の小鳥のかたちをしています。

交差点に氾濫していた看板はとりのぞかれ、ひとつの木の看板にまとめられました。やがて、道沿いの看板の多くは、風景に馴染む色彩や木でできたものへ、自然と姿をかえていきました。目立たなくとも雰囲気を感じさせられて——そんな心ある人に来てもらえればというのが会の思いです。

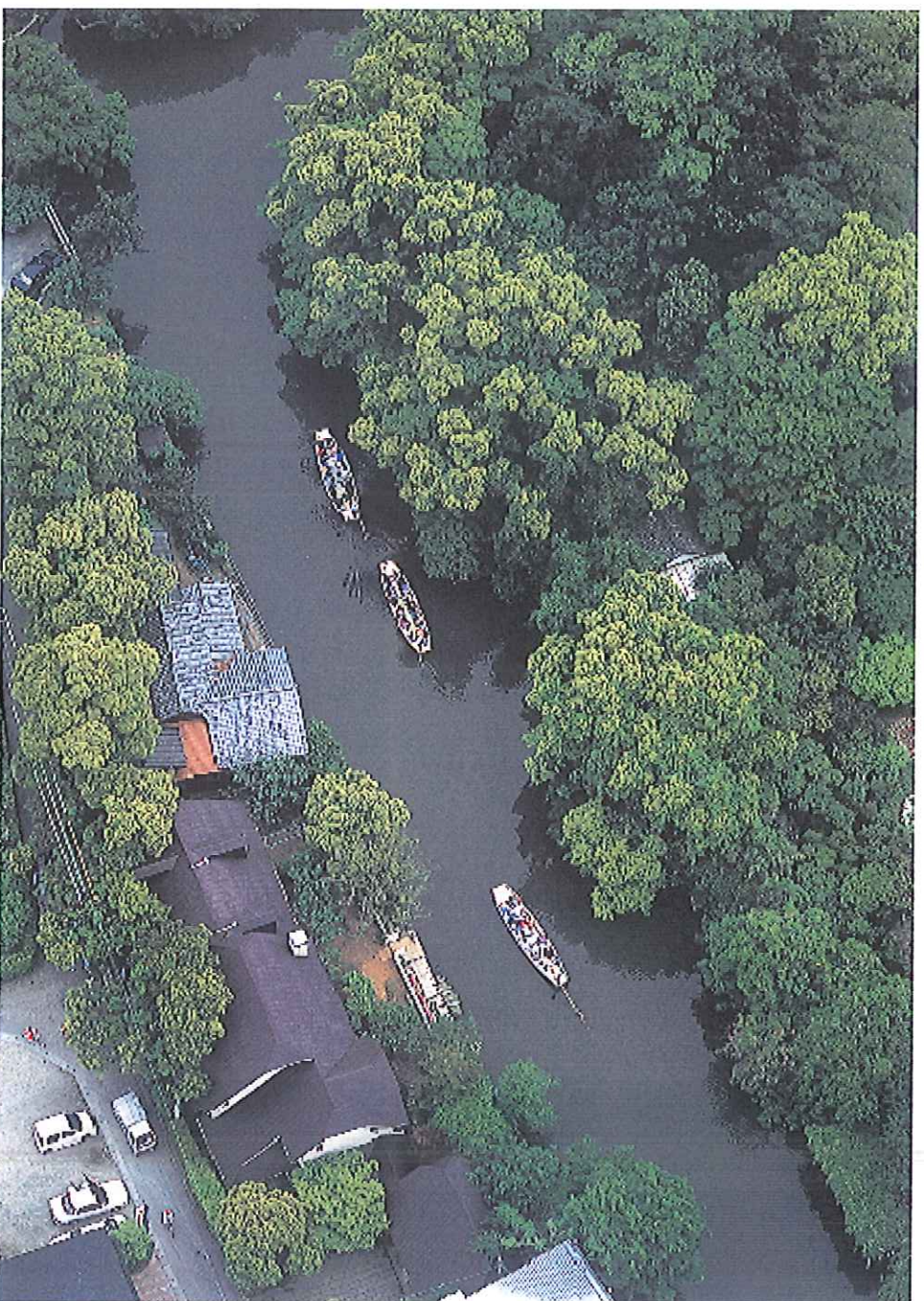
訪れる人が増えるにつれ、会の人々は道沿いの草刈りをし、風景に馴染む四季折々の山野草を植えてきました。

必要になった公共のトイレも、榎本地蔵さんの横につくられました



柳川
の
景観の
すすめ





この私の詩の母胎御河、この空、この光、この土、更にまたこの水の色と
香ひと温度と輝きこそは、幼き私を慈み育てあげた。この水の構図を以
てした地相こそは、おのづからにしてこの私を生んだ。

【水の構図】 北原白秋

柳川こそ我が詩歌の母体

多くのすぐれた文人、芸術家たちを育てたことでも知られる、柳川の自然と風土。彼らは、その作品の中で、柳川の「風景」を文章にし、描きました。

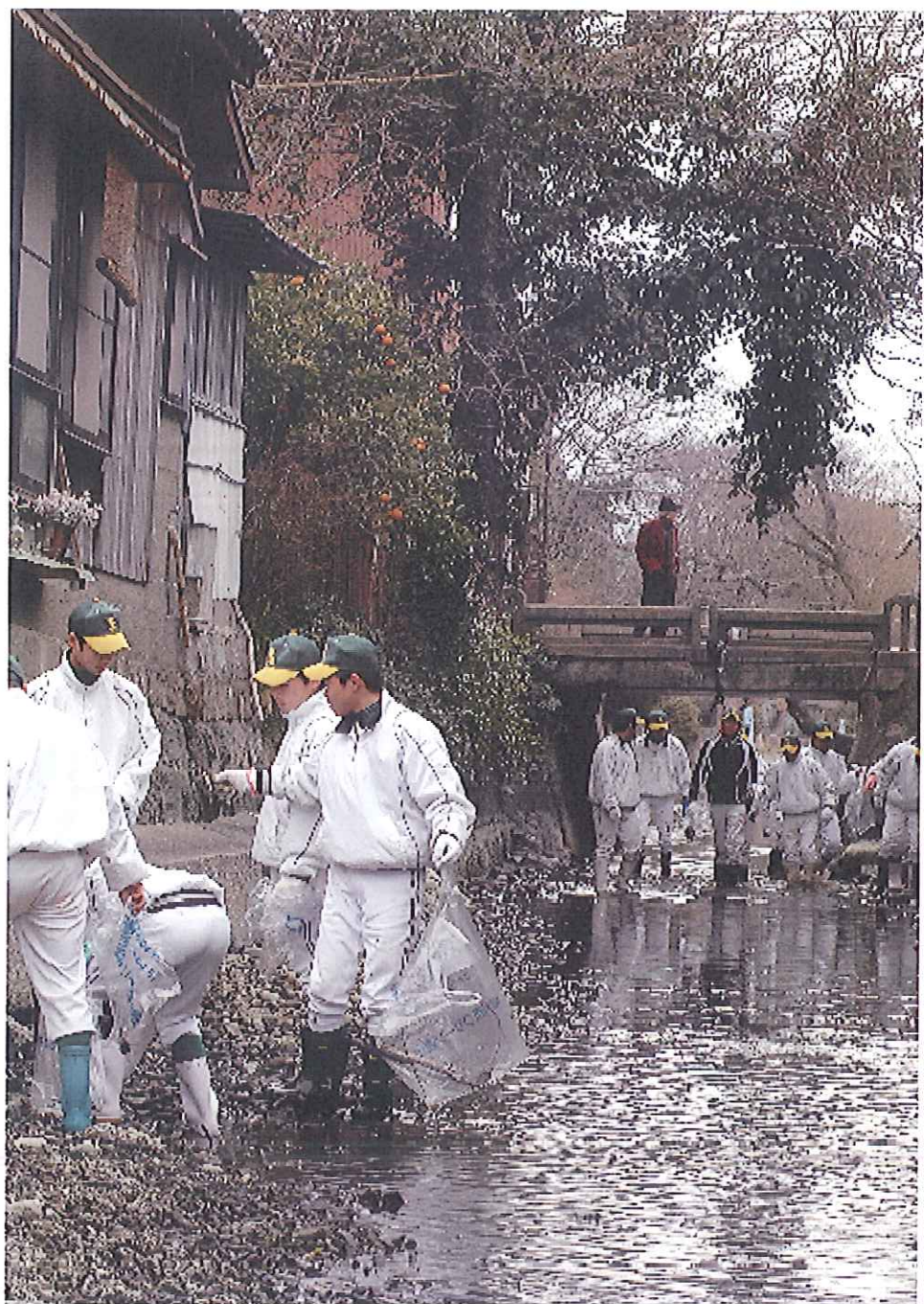
明治18年、沖瀨の田家に生まれ、二十世紀の日本近代文学に偉大な足跡を残した北原白秋もそのひとり。絶筆となった故郷柳川の写真集『水の構図』のはしぎには、

「水郷柳河」こそは、我が生れの里である。この水の柳河こそは、我が詩歌の母体である。この水の構図、この地相にして、はじめて我が体は生じ、我が風は成った」とつづられています。

その白秋の詩歌や童謡に、どれだけ多くの人びとが、まだ惹きつけられ、語り継いでいることでしょう。

日頃、何気なく目に行っているものが、子どもの頃から人間の感性を育て、暮らしを豊かなものに行っている——この白秋の一文には、そんな柳川の「風景」がもつ、偉大な力が現れています。





あわせると8割もの人びとが、柳川の景観を大切に思っていることがわかります。

「では、守っていくべき景観は何ですか」との問いに、まずあがっているのが、「田城下町の景観」。そして、「市街地の景観」、「集落の景観」と続きます。観光地柳川の象徴である田城下町、そして身近な暮らしの景観、このふたつが両輪となった「柳川の景観」の姿が浮かび上がっています。

しかし一方で、「思える面もある」の答えの中には、問題に思うという部分も隠されているのではないのでしょうか。

「では、柳川の良さを損んでいる景観は何ですか」との問いに、「管理されていない田畑や段伐とした空き地が増えていること」「豊かな自然の緑や水辺などが減少していること」「河川や海岸がコンクリートなどで固められていること」と上位3つが続きます。自然が詩歌の母体であるといった柳川の風景は、今、確実に大きな部分から、失われようとしています。上位に続く回答の中にある、「まち中の緑の少なさ」「放置されたゴミ」といった問題は、さまざまな市民活動によって、取り組まれているものもあります。「協力できることは何でもすか」という問いに、「庭先やベランダなど、家の周りの美化に努める」「身近な掘削公園、

